

承認番号	2019-100
研究課題名	EGFR阻害剤後のT790M変異による獲得耐性と治療前の肺癌組織検体におけるTP53遺伝子変異との関係を検討する研究
研究の意義・目的	T790M遺伝子発現をEGFRチロシンキナーゼ阻害薬治療前から予測することができれば、どのEGFRチロシンキナーゼ阻害薬を初回治療として使用するのが良いか治療戦略を考える上で非常にメリットが大きい。肺癌細胞におけるTP53遺伝子変異は、その存在が肺癌細胞の更なる遺伝子多型を誘発する可能性があり、獲得耐性時にT790M遺伝子変異検出頻度に関わる可能性がある。TP53遺伝子変異がT790M遺伝子発現と関連する事が判明すれば、治療戦略上EGFRチロシンキナーゼ阻害薬の使い分けを行う上で非常に有利であり、上記関連性を調べる意義は大きい。
研究を行う期間	倫理委員会承認後 ～ 2022年 7月 30日
研究対象者の範囲	2013年8月1日～2019年7月30日の期間に、大阪市立大学医学部附属病院において、EGFR遺伝子陽性非小細胞肺癌に対し初回治療にEGFRチロシンキナーゼ阻害薬の治療を受けた患者を対象としています。
お願いする内容	<input type="checkbox"/> 共同研究機関に頂いた試料・情報を提供します。 <input type="checkbox"/> 大阪国際がんセンターが共同研究の代表施設として研究いたします。
	組織(EGFR-TKI投与前後の検体)、検査データ、診療記録等の試料・情報を本研究に使用させていただきます。
頂いた試料・情報の提供方法	特定の個人を識別できない形で提供します。
頂いた試料・情報の管理について責任者	大阪国際がんセンター呼吸器内科 熊谷 融
この研究を行っている施設（共同研究機関）	大阪市立大学大学院医学研究科呼吸器内科学・臨床腫瘍学 川口知哉教授、大阪はびきの医療センター肺腫瘍内科 平島智徳部長、石切生喜病院呼吸器内科 南謙一部長、ベルランド総合病院呼吸器内科 眞本卓司部長、独立行政法人国立病院機構近畿中央呼吸器センター呼吸器腫瘍内科 田宮朗裕医長、神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科 佐藤悠城副医長、大阪急性期・総合医療センター呼吸器内科 内田純二副部長、県立広島病院呼吸器内科 濱井宏介部長、和歌山県立医科大学第三内科学講座 洪泰浩准教授
代表施設のURL	<a href="https://oici.jp/center/clinical/research/houkatu/kokyuukinaika/">https://oici.jp/center/clinical/research/houkatu/kokyuukinaika/</a>
研究の成果を公表する方法	研究成果はしかるべき英文誌および学会に発表するものとする。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。また、研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 呼吸器内科 小川 晃一 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町 1-5-7 TEL: 06-6645-2306